

第 56 期

中間事業報告書

(平成17年 8 月 1 日から)
(平成18年 1 月31日まで)



株式会社 **イチヤ**

ごあいさつ

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は、格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社は平成18年1月31日をもって、第56期の上半期を終了いたしましたので、ここにその事業の概況をご報告申し上げます。

営業の概況（営業の経過および成果）

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、企業業績の改善や設備投資の増加を背景にした雇用環境の改善などから個人消費は緩やかに回復してまいりました。

このような環境のなか当社グループは、本業である紳士服等衣料品事業、焼肉店の飲食事業、不動産事業に併せ投資事業ならびにプライダル事業に取り組んでまいりました。

紳士服等衣料品事業に関しては、成熟した市場において競合状態が続くなか、消費の選択的傾向は一段と強まり、価格競争が一段と激しく、依然として厳しい状況が続いております。こうしたなか、お客様のニーズと新鮮さを追求した商品開発や新たな取り組みとして、体の大きな方の専門店「キングセレクト」として、既存店舗のリニューアルを行い、地域一番店を目指すべく、スーツからカジュアルまでの幅広い商品を2Lから最大10Lまで取り揃えることで、お客様のご支持を頂き、現在堅調に推移しております。これらにより前年同期比115%の売上高を達成したものの、積極的な販売促進による在庫商品の圧縮を行ったことにより利益は圧迫される結果となりました。

飲食事業に関しては、外食産業全体を取り巻く客単価の下落や来店客数の減少など構造的な不況に悩まされるなか、企業間競争はますます激しさを増しております。長期化している米国産牛肉の輸入禁止措置が解除になった矢先、再度輸入禁止になるなど、牛肉価格は高値のまま推移しており、業界を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いております。こうしたなか、当社は季節メニューの開発や肉類のロス管理を行うことにより集客向上ならびに粗利益の改善に努めた結果、売上高は順調に推移したものの、食材原価の上昇を吸収するには至りませんでした。

不動産事業に関しては、上期は賃貸業務中心の活動であったため業績への貢献はできませんでしたが、既に仕入れている分譲用土地の造成工事が順調に進んでおり、下期後半より分譲開始できる見込みであります。

投資事業に関しては、企業業績の改善、デフレ経済からの脱却ならびに構造改革への期待を受けて、国内株式市場は、平成17年8月以降買いが加速し、相場は大幅に上昇いたしました。こうしたなか、当社の投資事業につきましては、短期運用目的の上場株式投資により有価証券運用益を獲得できたことにより大幅な業績への貢献ができました。

プライダル事業に関しては、平成17年9月に当社グループとして連結子会社となった株式会社V O U Sの子会社である株式会社セレストが、レストランウェディングの企画、運営事業を行っております。国内のプライダルマーケットにおきましては、挙式披露宴を行う二人中心のスタイルが一般化しており、お客様の選択の厳しさが増しております。こうしたなか、結婚する二人の「ふたりらしさ」を追求するべく、担当プランナーがお客様とのヒアリングを重ねることで、お二人の嗜好に確実にお応えできる挙式披露宴を提供することによりお客様の支持を得ております。

その他事業のうち、連結子会社の株式会社FM-ICは、平成17年11月に株式会社インターネットスーパーへ商号を変更し、インターネットショッピングモールの運営を目指し現在準備を行っております。また、平成17年9月に当社の連結子会社となった株式会社V O U Sは、美容サロンの経営を行っており、売上増進を図るべく新規出店準備を進めております。

これらの結果、当中間連結会計期間の業績につきましては、売上高1,239百万円（前年同期比263.6%増）、経常利益203百万円（前年同期経常損失276百万円）と躍進することができました。しかしながら、中間

純損失につきましては、当連結会計年度より適用となる減損会計により、減損損失を計上したことにより中間純損失533百万円（前年同期中間純損失655百万円）となりました。

その他、平成17年11月にはロシア連邦のサハ（ヤクーチア）共和国において、金の採掘権を所有し採掘事業を行っている株式会社サハゾロトへ出資を行い関連会社といたしました。

また、平成16年5月12日開催の臨時株主総会で承認可決された「株式移転による完全親会社設立の件」につきましては、平成17年10月26日開催の第55回定時株主総会第2号議案において、取り下げを決議しております。

上海華源股份有限公司との業務提携に伴う合併会社設立につきましては、同社の諸問題により計画が大幅に遅れており、設立に向けて再三催促したものの具体的な進展が見込めないと判断し、合併会社設立の中止ならびに業務提携を解消することといたしました。

なお、当中間連結会計期間における当社の資金調達の状況に関しましては、平成17年4月20日発行の第3回新株予約権の権利行使として1,100百万円、平成17年11月17日発行の第4回新株予約権の権利行使として5,930百万円の資金調達を行うことができました。これにより計画していた借入金の全額返済を行い、財務状況は大幅に改善いたしました。

通期の見通し

紳士服等衣料品事業につきましては、体の大きな方の専門店「キングセレクト」が順調に推移していることを踏まえ、他の既存店舗も他社との差別化を図るべく、専門特化した特徴ある店舗作りで集客に努めてまいります。

飲食事業につきましては、未だ米国产牛肉の輸入再開の目処も立たないことから、収益確保できる商品開発に一層力を入れ、収益改善を図ってまいります。また、今後は焼肉以外の飲食事業も検討しながら業態開発を進めてまいります。

不動産事業につきましては、上半期に仕入れている分譲用土地の造成工事が順調に進んでおり、下期後半より分譲開始できる見込みであります。

投資事業につきましては、国内の景気回復を受けて、株式市場は安定的に推移していくものと見受けられます。しかしながら、投資事業には、固有のリスクが存在するものと認識しており、案件ごとに投資先およびマーケット状況の十分な情報収集を経て慎重に投資決定を行ってまいります。

ブライダル事業につきましては、更なるお客様の嗜好に確実にお応えできる挙式披露宴を提供することによりお客様の支持を得てまいります。

その他の事業につきましては、各事業とも未だ事業構築の時期であり、業績への貢献は来期以降を予定しております。

なお、当連結会計年度の業績につきましては、売上高1,900百万円、経常損失80百万円、当期純損失970百万円を見込んでおります。

今後当社は、第4回新株予約権の順調な権利行使により資金調達ができていくことから、既存事業の強化とM&Aや業務提携による新規事業の開発を進め、グループとしての業容拡大により、安定した収益を確保できる経営体制の構築を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年4月

株式会社 イチヤ

代表取締役社長 吉岡公和

中間連結貸借対照表

(平成18年1月31日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負債、少数株主持分及び資本の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	7,510,442	流 動 負 債	141,118
現金及び預金	6,148,616	買 掛 金	31,264
受取手形及び売掛金	12,925	短 期 借 入 金	730
たな卸資産	199,854	1年内返済予定長期借入金	2,256
販売用不動産	770,494	未払法人税等	12,965
短期貸付金	300,060	賞与引当金	3,700
そ の 他	86,320	そ の 他	90,201
貸倒引当金	△ 7,828	固 定 負 債	33,440
固 定 資 産	2,215,164	長期借入金	1,270
有形固定資産	1,324,024	そ の 他	32,170
建物及び構築物	285,932	負 債 合 計	174,558
土 地	962,047	少 数 株 主 持 分	13,594
そ の 他	76,044	資 本 金	8,648,047
無形固定資産	231,637	資 本 剰 余 金	3,515,000
投資その他の資産	659,501	利 益 剰 余 金	△ 2,624,696
投資有価証券	367,921	自 己 株 式	△ 542
長期前払費用	75,484	資 本 合 計	9,537,808
敷 金	202,879	負債、少数株主持分及び資本合計	9,725,960
そ の 他	34,997		
貸倒引当金	△ 21,782		
繰 延 資 産	353		
資 産 合 計	9,725,960		

(注) 1. 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

2. 有形固定資産の減価償却累計額 596,303千円

中間連結損益計算書

(平成17年8月1日から
平成18年1月31日まで)

(単位：千円)

科 目		金 額	
経常 損益 の部	営業収益		1,239,686
	営業費用		
	売上原価	328,761	
	販売費及び一般管理費	698,352	1,027,113
	営業利益		212,572
	営業外収益		
	受取利息	5,032	
	受取配当金	852	
	その他の営業外収益	2,528	8,413
	営業外費用		
特別 損益 の部	支払利息	7,828	
	持分法投資損失	9,896	
	その他の営業外費用	21	17,747
	経常利益		203,238
	特別利益		
	貸倒引当金戻入額		22,500
	特別損失		
	固定資産除却損	7,269	
	投資有価証券評価損	23,763	
	新株発行費	67,245	
税金等調整前中間純損失	減損損失	664,325	762,603
	税金等調整前中間純損失		536,864
	法人税、住民税及び事業税		3,894
	少数株主損失		7,272
中間純損失			533,485

(注) 1. 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

2. 1株当たり中間純損失

0円84銭

中間貸借対照表

(平成18年1月31日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負債及び資本の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	7,626,793	流 動 負 債	85,055
現金及び預金	6,051,886	買 掛 金	27,975
売 掛 金	5,700	未 払 金	10,998
商 品	145,237	未 払 費 用	16,911
販売用不動産	770,494	未払法人税等	12,822
店 舗 食 材	9,649	賞与引当金	3,700
貯 蔵 品	2,676	そ の 他	12,647
短期貸付金	582,020	固 定 負 債	32,170
前 払 費 用	26,172	預 り 敷 金	31,920
そ の 他	40,782	そ の 他	250
貸倒引当金	△ 7,828	負 債 合 計	117,225
固 定 資 産	2,057,258	資 本 金	8,648,047
有形固定資産	1,264,090	資 本 金	8,648,047
建 物	258,403	資 本 剰 余 金	3,515,000
構 築 物	26,681	資 本 準 備 金	3,515,000
車 両 運 搬 具	1,207	利 益 剰 余 金	△2,595,678
器具及び備品	14,205	中間未処理損失	2,595,678
土 地	962,047	自 己 株 式	△ 542
建設仮勘定	1,544	資 本 合 計	9,566,826
無形固定資産	8,598	負債及び資本合計	9,684,051
電 話 加 入 権	195		
ソフトウエア	366		
特 許 権	337		
特許権仮勘定	7,700		
投資その他の資産	784,569		
投資有価証券	374,886		
子 会 社 株 式	70,000		
出 資 金	1,652		
子会社出資金	5,871		
長期貸付金	76,965		
長期前払費用	75,484		
敷	190,024		
そ の 他	11,467		
貸倒引当金	△ 21,782		
資 産 合 計	9,684,051		

(注) 1. 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

2. 子会社に対する短期金銭債権 339,407千円

3. 有形固定資産の減価償却累計額 590,066千円

中間損益計算書

(平成17年8月1日から
平成18年1月31日まで)

(単位：千円)

科 目		金 額	
経常損益の部	営業収益		
	売上高		1,031,901
	営業費用		
	売上原価	198,711	
	販売費及び一般管理費	597,205	795,917
	営業利益		235,984
	営業外収益		
	受取利息及び配当金	8,543	
	その他の営業外収益	2,100	10,643
	営業外費用		
特別損益の部	支払利息	7,765	
	その他の営業外費用	21	7,787
経常利益			238,840
特別損益	特別利益		22,500
	特別損失		762,486
税引前中間純損失			501,145
法人税、住民税及び事業税			3,751
中間純損失			504,896
前期繰越損失			2,090,782
中間未処理損失			2,595,678

(注) 1. 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

2. 1株当たりの中間純損失 0円80銭

株式の状況

(平成18年1月31日現在)

①会社が発行する株式の総数 1,400,000,000株

(注) 平成17年10月26日開催の第55回定時株主総会において定款を変更して会社が発行する株式の総数を765,000,000株から1,400,000,000株に変更しました。

②発行済株式の総数 1,034,760,884株

(注) 発行済株式総数は前期末に比べ新株予約権の権利行使により703,000,000株増加しております。

③株 主 数 38,270名

④大 株 主

株 主 名	当社への出資状況		当社の当該大株主への出資状況	
	持 株 数	出 資 比 率	持 株 数	出 資 比 率
	株	%	株	%
大 阪 証 券 金 融 株 式 会 社 (業 務 口)	34,520,000	3.34	—	—
ス イ ー ト キ ャ ピ タ ル オ フ シ ョ ア リ ミ テ ッ ド	30,000,000	2.90	—	—
タ ワ ー ス カ イ プ ロ フ ィ ッ ツ リ ミ テ ッ ド	21,070,000	2.04	—	—
株 式 会 社 神 商	15,000,000	1.45	—	—
株 式 会 社 エ ス ・ エヌ ・ プ ロ ジ ェ ク ト	15,000,000	1.45	—	—
立 花 証 券 株 式 会 社	14,146,000	1.37	—	—
栗 原 睦 裕	10,000,000	0.97	—	—
谷 川 雄 康	8,500,000	0.82	—	—
大 和 証 券 株 式 会 社	6,843,000	0.66	—	—
片 岡 房 雄	4,040,000	0.39	—	—

会社の概況

(平成18年1月31日現在)

社名	株式会社イチヤ ICHIYA CO., LTD.
設立	昭和27年6月24日
資本金	8,648,047,206円
決算期	7月31日
本社	高知県高知市帯屋町一丁目10番18号
営業店舗	9店舗(直営店)
従業員	19名(パートタイマーは含んでおりません。)
主要な営業所	本社：高知県高知市 店舗：紳士服イチヤ店 4店舗 キングセレクト店 1店舗 高知県 5店舗 焼肉牛藩店 4店舗 高知県 3店舗 埼玉県 1店舗

取締役および監査役

(平成18年1月31日現在)

代表取締役社長	吉岡公和
取締役会長	山本誠三
取締役	曾我部達雄
取締役	竹崎隆一
取締役	橋田宗人
取締役	山本真嗣
常勤監査役	中越正人
監査役	澤本正二郎
監査役	清水正博
監査役	山中範博

関係会社の状況

(平成18年1月31日現在)

会 社 名	持株比率(%)	主 な 事 業 内 容
[連結子会社]		
株式会社インターネットスーパー	100.0	インターネットショッピングモールの運営（開設準備中）
株式会社VOUS	50.0	美容サロンの経営
株式会社セレスト（株VOUS100%子会社）		レストランウェディングの企画・運営
有限会社カーサ	100.0	広告代理業およびペット霊園事業（開設準備中）
[持分法適用関連会社]		
株式会社アール・ティー・シーマネージメント	34.0	不動産業
株式会社サハズロト	50.0	ロシア連邦サハ共和国における金の採掘事業

●株 主 メ モ

決 算 期 日 毎年7月31日

定 時 株 主 総 会 毎年10月

株主確定基準日

定時株主総会 7月31日

利 益 配 当 金 7月31日

中 間 配 当 金 1月31日

(その他必要あるときは、あらかじめ公告します。)

株式の名義書換

名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

連絡先・送付先 〒171-8508

東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-707-696 (フリーダイヤル)

同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
野村證券株式会社 全国本支店

1単元の株式の数 1,000株

公 告 の 方 法 電子公告により当社ホームページ
(<http://www.ichiya.biz>)に掲載いた
します。なお、やむを得ない事由によ
り、電子公告によることができない場
合は、日本経済新聞に掲載いたします。
また、決算公告として貸借対照表およ
び損益計算書を (<http://www.aspir.co.jp/kessan/9968/9968.html>) に掲載
しております。

お 知 ら せ ●住所変更、配当金振込指定・変更、
単元未満株式買取請求に必要な各用
紙および株式の相続手続依頼書のご
請求は、名義書換代理人のフリーダ
イヤル0120-86-4490で24時間承っ
ておりますので、ご利用ください。